

# 令和7年度 宮城県済生会みやぎ乳児院事業報告

## ① 乳児院事業全般

「済生会創設の精神のもとに、児童を取り巻く社会情勢の変化に柔軟に対応し、子どもが大人に守られ、大切にされ、安心して生活できる開かれた安全な養育環境を整え、入所児童の生命と人権を守り、健やかな成長を支援する」という理念のもとに保育目標・保育方針・運営方針・保育計画に沿って、日々の養育に細心の注意を払って子どもたちを観察し、よりよい保育を目指すとともに、子どもたちが日々心健やかに成長するよう、常に処遇の向上に努めています。

昨年度発生した被措置児童虐待の再発防止を法人全体の問題として取り組み、施設内における入所児童へのマルトリートメントの防止と発生時の対応についても引き続き、全職員での共有を図り、処遇意識の向上に努めています。

令和7年度は、移転後の環境の変化に子どもたちも職員もだいぶ慣れ小規模グループケアの良さを実感する反面、情報共有のあり方など課題もみられ、処遇の質のさらなる向上に向けて取り組んでいる。

## ② 入所児童の状況

### イ 入所状況

令和7年度中に措置入所した児童は、16人で、その入所理由は、虐待6人、保護者障害・疾病3人、経済的困窮3人、母未婚の出産1人、その他1（養育基盤が不安定）人でした。

#### ○措置実績

(延人数)

令和5年度			令和6年度			令和7年度		
仙台市	宮城県	計	仙台市	宮城県	計	仙台市	宮城県	計
3,988	3,831	7,825	3,873	4,447	8,320	5,205	4,899	10,104

### ロ 児童処遇の状況

令和7年度の在籍(取扱い)児童数は、措置児童が38名であった。措置児童の入所理由は、約半数の17名が虐待を理由とした入所となっており、何らかのこころの傷を負った乳幼児が多くなっている。このような状況に対応し、家庭支援専門相談員が入所児童のアセスメント会議を開催し、支援職員(心理職員、相談職員、栄養管理職員、個別対応職員など)と担当職員とでアセスメントを行い、児童への支援方針の決定及び担当職員への助言や指導を行い、適正な処遇に努めた。(アセスメント会議:21回開催)

さらに、虐待等による課題を抱える児童に対しては、心理職員による療育的アプローチを含む個別心理ケア(延べ120回)を行うほか、児童精神科医とスーパーバイズ契約を締結し、毎月心理職員へのスーパーバイズ(12回)を行った。

### ハ 児童の栄養管理・給食

食事の基本方針として令和6年度より開始した「みやぎ乳児院スタンダード」に基づき、4項目の取り組みを実施した。

#### ①家庭的で安心した食事

各ホームの家庭的な養育環境の中で「ご飯を炊く」、「料理に味付けをする」など調理を通じたかかわりを持つことが出来た。また、行事食や誕生日、各ホームでクッキング保育などを実施することで、調理の楽しさも体験することが出来た他児や保育職員との共食の経験が食事の大切さや楽しさを感じる良い機会となった。

## ②発達に応じた献立

入所児童の毎月の身体測定値から推定エネルギー必要量を算定し、児の発達に応じ、ミルク量や食事形態も個別に対応した。令和7年4月から令和8年3月までのエネルギー摂取量は目的値に対して99.2%(平均)の達成率となった。

## ③食育

食育については、入所児童が水やりから収穫、各ホームでの料理等の体験を通して、児の食事への興味・関心が深まったように感じることができた。

## ④出張調理

調理員2名がホームに出向き、目の前でホットケーキなどの料理が出来上がる過程を通して、五感を使って食事を楽しむことが出来たが、感染症対策で中止になることもあり7年度は2回実施した。

## ○地域支援等

- ・産後ケア事業（食事提供をした場合のみ）は日帰り12件、宿泊3件。
- ・家族（父母、里親）等への食事に関する個別対応は6件。
- ・地域支援（栄養相談）は1件。
- ・ホームページに「栄養士たより」を載せて、乳幼児の献立等を紹介している。

## ニ 児童の健康管理

フリーの看護師を毎日配置し、入所児童全体の健康観察を実施し、体調管理を行った。さらに、医療連携担当看護師が病虚弱児の通院介助や医師の診察支援等を行い、他職種への体調に関する情報を的確に伝え、連携を密に行った。

### ○通院状況

	入所児の延べ通院回数（クリニック通院含む）
令和7年度	回
令和6年度	541回
令和5年度	407回

### ○入院状況

- ・9/18～9/20 男児（1歳1か月）停留睾丸手術

### ○感染症状況

感染症対策では、ホーム間の移動や感染児の隔離や対応により比較的適切な対応が可能となっているが、令和7年度は2回の集団感染が発生した。

感染症が発生した祭は、速やかに完成症対策委員会を開催し感染防止対策を検討するとともに保健所に報告した。

#### ○RSウイルス感染症

- ・5/22～6/12（児13名）

#### ○ノロウイルス感染症

- ・2/21～3/10 最初に児童が発症し累計29名（児21名、職8名）
- ・2/24～3/2 女児（1歳5か月）入院

## ホ 退所状況

当院の入所児は、親からの分離体験を持ち、加えて虐待体験を経ての入所児がいる。当院においての生活により担当養育者との愛着関係を構築しているものの、当院を退所することは再び分離体験をすることとなる。

したがって、退所にあたっては、十分なリービングケアのもとに次の養育者に丁寧に引き継ぐことを目指し、適切な家庭養育や家庭的養育の里親委託が図られるよう、児童相談所と連携し、養育担当職員が中心となり、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、看護師、栄養士及び心理職員が協力（多職種連携）

し、退所の促進に取り組んだ。

退所時には、看護師による予防接種，乳幼児健診，病気や通院の内容説明等を実施し、さらに栄養管理職員による保護者・里親への食事相談などを実施した。

令和7年度中に退所した児童は15人で、家庭復帰6人、他施設5人、里親委託4人であった。

へ 病虚弱児加算対象児の受け入れ

疾病や傷害があり援助が必要な病虚弱児を受け入れているが、専用の居室がないため健常児と一緒にスペースで生活しており、令和7年度は初日在籍延人数131人（38.3%）で、診療科が多岐に渡る児童が多いため通院の負担が大きくなっている。

③ 一時保護受託事業

児童福祉法第33条に基づき児童相談所長が行う一時保護を受託した。令和7年度の一時保護児童の受入（取扱い）児童数は、26名となり、5名が当院への措置入所となった。

○ 受託実績 (延人数)

令和5年度			令和6年度			令和7年度		
仙台市	宮城県	計	仙台市	宮城県	計	仙台市	宮城県	計
788	917	1,705	576	1,512	2,088	426	622	1,048

④ 子育て支援ショートステイ事業（第二種社会福祉事業）

家庭で子どもの養育が一時的に困難になった時に子どもを預かるショートステイ事業を受託しています。令和7年度から大和町からも委託を受けています。

○ 利用実績 (延人数)

	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	2歳未満	2歳以上	計	2歳未満	2歳以上	計	2歳未満	2歳以上	計
仙台市	21	2	23	4	25	29	16	3	19
富谷市				9	0	9	17	0	17
大和町							5	0	5
計	21	2	23	13	25	38	38	3	41

⑤ 里親レスパイト受託

令和7年度の希望は0件。

⑥ 病児・病後児保育事業

病児・病後児保育こどもケアルームは、令和4年度まで小児科（宮城県済生会こどもクリニック）併設型で行ってきたが、移転に伴い、令和5年度から乳児院（宮城県済生会乳児院）併設型に移行した。富谷市、利府町、大衡村からの受託と、宮城県済生会の単独事業として、その他の市町村を対象に実施している。子育て支援事業の一環として、病気や事故、出産、冠婚葬祭などで保育所や家庭保育が困難な病児・病後児を対象に保育を行っており、周辺市町村への広報活動を継続的に行い、令和7年4月からは大和町から受託し今後も利活用の促進に努めている。

○ 利用実績 (延人数)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
仙台市(契約なし)	5(5)	9(8)	22(21)
富谷市	46	131	78(4)
利府町	1	4	2
大衡村	0	0	0

大和町			3
計	5 2 (5)	1 4 4 (8)	1 0 5 (2 5)

\* ( ) は福利厚生。

⑦ 地域支援

地域で生活する家庭への子育て支援は、社会的養護として乳児院に入所することなく家庭において適切に養育されるための予防的支援として求められております。済生会の理念に基づき、地域の関係機関と連携・協力し地域支援に取り組んでいます。として対する様々な取り組みを検討していきます。

イ 育児指導機能強化事業（乳児院等多機能化推進事業）

令和6年度より、「育児担当」が配置され、入所児童（一時保護）やその家族や地域で子育て中の家庭等からの育児に関する相談に応じています。

ホームページにて地域の家族に向けた育児相談に関する案内を掲示し、対応する各専門職のカレンダーを毎月更新しています。

他の広報として、当院併設クリニックとケアルーム、富谷市役所、成田公民館にホームページ掲載と同様のチラシを掲示し利用拡大を図っています。

令和7年度は、地域支援の育児相談に延べ3件の利用がありました。2件は4か月女児に関する相談で助産師が対応、1件は2歳2か月男児の相談で栄養士が対応するなど乳児院の専門性を活かした支援を行いました。

ロ 心理職による地域支援活動

育児指導担当者、産後ケア担当者と連携し、必要に応じて心理職が支援している。令和7年度は、年度途中で心理職1名が退職したことにより対応件数が減少しています。

相談実績 (件)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
家庭訪問等	4	8	14
面接・電話相談等	4	28	4
要対協(実務者会議)等	9	40	19
計	17	76	37

ハ (新) 産後ケア事業

産後ケア事業は、乳児院の多機能化・高機能化の一環として実施され、令和7年4月に富谷市、令和8年1月に大和町と個別契約を締結しました。

令和7年度の利用件数は25件で、内訳は訪問型10件、通所型9件、宿泊型3件となっています。利用目的は育児相談や母乳相談が多く、次いで休息となっている。当院の強みである多職種連携により、相談内容に応じて栄養・保育・心理などの専門職が支援を行い、産後ケアから地域支援事業へと切れ目のない支援を提供することで、予防的支援の役割を担っています。

⑧ 第三者評価

○評価機関 (株)福祉工房

○評価実施期間 令和7年9月25日から令和7年12月24日

○総評

「地域への福祉ニーズへの取り組み」「医療面での連携体制」「退所後のアフターケア体制」について高い評価をいただいた。「理念や事業計画の職員全体への周知・浸透」「夜間体制における現状での課題」「コンプライアンス意識の浸透」について改善を求められた。夜間体制については令和 8 年度の新任職員の採用もあり、改善される見通しが持っている。他の 2 点に関しては会議や研修を通して職員への浸透を図っていききたい。

毎月行っている自己評価（自己点検チェック）に関しては、職員の抱えている問題にチームリーダーも把握しアドバイスを行えるようにして、職員とのコミュニケーションを図りやすくするように取り組んでいます。

#### ⑨ 人財育成

令和 6 年度に策定した「宮城県済生会みやぎ乳児院人財育成方針」に基づき、組織として人財育成を行い、職員の倫理観，人間性並びに乳児院職員としての職務及び責任の理解と自覚を高めることを目的にし，経験年数，職責に応じて研修に取り組みました。

##### イ 内部研修 内部専門職による講義

- ・施設長他「権利擁護（4），施設内虐待（8，10，3月），目標管理（8，1月），適切な言葉選び（9，1月）」
- ・日赤職員「救急救命講習（6，7月）」
- ・家庭支援専門相談員「ソーシャルワーク（5，12，1月）」
- ・参加職員「伝達研修（11，12月）」

##### ロ 外部研修

レベル	概要
就任前	・新卒オリエンテーション（1週間3人）
初任職員 （3回6名）	・令和7年社会福祉施設新任職員研修（県社協） ・令和7年度家族再統合実務者研修（中央児相） ・令和6年度第3回児童相談所職員研修（中央児童相談所）
中堅職員 （27回46名）	・令和7年度産後ケアシンポジウム（県助産師会） ・令和7年度里親研修会（ほほえみの会） ・令和7年度里親関係職員研修（けやき） ・第68回全国乳児院研修会（全乳協） ・令和7年度第2回宮城県地域共生社会推進会議（県社協） ・令和7年度トラウマインフォームドケア研修会（県児相） ・令和7年度家庭ソーシャルワーク研修（日社会）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度クレーム対応研修(県社協)</li> <li>・令和7年度家族再統合研修(中央児相)</li> <li>・東北・北海道ブロック乳児院協議会(全乳協)</li> <li>・令和7年度妊産婦ネットワーク交流会(全社協)</li> <li>・令和7年度対人援助技術研修(県社協)</li> <li>・令和7年度関係機関職員研修会(けやき)</li> <li>・令和7年度地域福祉コーディネート研修(県社協)</li> <li>・令和7年度関係機関職員研修会(けやき)</li> <li>・令和7年度社会福祉施設中堅・監督職員研修(県社協)</li> <li>・令和7年度福祉施設職員キャリアパス研修(県社協)</li> <li>・令和7年度児童養護施設中堅職員研修会(県児協)</li> <li>・令和7年度福祉教育学習会(県社協)</li> <li>・第43回済生会協議会(済乳協)</li> <li>・第23回養育支援研修会(こども病院)</li> <li>・令和7年度心理職員と児相との連絡会議(中央児相)</li> <li>・令和7年度第2回産後ケア会議(県助産師会)</li> <li>・令和7年度里親推進会議(けやき)</li> <li>・令和7年度関係機関合同研修会(中央児相黒川支所)</li> <li>・第7回乳児院医療・看護セミナー(全乳協)</li> <li>・死亡事例から学ぶ研修会(こどもの虹)</li> </ul>
上級職員 (2回4名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第14回乳児院上級職員セミナー(全乳協)</li> <li>・済生会学会(済乳協)</li> </ul>
基幹的職員 (1回2名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県社会福祉法人経営者協議会(県社協)</li> </ul>

⑩ 各種行事

イ 各種会議の開催

各種会議及び運営のための委員会活動の定着を図るとともに、施設運営のための活動の活発化を図り、職員が、自分たちの施設である意識を強く持ち、乳児院の運営を組織的に進めていくこととしている。運営組織の中で各種の課題について話し合いを進めてきており、今年度も引き続き施設運営を安定的に進めていく。

会議名	出席者	内容	開催回数
職員会議	職員	施設運営に関する職員の情報共有等研修会	11回

支援会議(全体)	施設長, 副施設長, 支援職員, 養育担当職員	各児童の発達状況や注意事項を確認し, 養育担当職員が共有する	12回
アセスメント会議	施設長, 副施設長, 支援職員, 養育担当職員	支援職員と担当職員が, 児童のアセスメントを行い, 支援方針の決定や指導・助言等を行い, 当該児童の処遇方向を共有する	21回
リーダー会議	副施設長, 各リーダー	入所児養育支援の企画検討 ユニット間の情報共有	12回
評価委員会	施設長ほか	事業評価 研修, 研究企画評価 職員自己評価等	7回
安全管理委員会	副施設長, リーダーほか	事故防止対策及び安全計画の検討	12回
広報委員会	広報委員	広報誌の企画, 編集 乳児院の広報・取材対応	5回
給食委員会	施設長, 栄養士, 調理員, 直接処遇職員	給食の位置づけ及び目標を定め, 給食運営が適切に行われているかの検討。食事についての諸問題を検討	12回
衛生委員会 (看護職会議)	看護リーダー 看護職員	感染症予防対策, 衛生管理ほか	11回
運営委員会	施設長, 副施設長, 各専門職, ユニットリーダー	乳児院の運営全般についての企画、事業の進行・管理等を行っていく。 各委員の担当業務や委員会からの報告	12回
ホーム会議	各ホーム職員	各ホームの運営や子どもに関する情報共有	58回

ロ 院内行事

① 全体実施

開催時期	行 事	時 間
5月 5日	こどもの日	10:00~12:00
7月 31日	夏祭り	〃
11月	七五三詣り	〃
12月	クリスマス会	〃

② 各ホーム実施 (誕生会は誕生月に実施)

開催時期	行 事	時 間
7月 7日	七夕	10:00~12:00
10月	ハロウィン	〃
11月	七五三	〃
2月 3日	節分	〃

3月 3日	ひなまつり	//
3月	お別れ会 (適宜)	//

- ハ 院外行事 (感染症の状況を見極め判断する。)
- 動物園 (4回) 水族館 (3回) アンパンマンミュージアム (7回)  
七北田公園ピクニック (6回) 仙台市科学館 (2回) 交通公園 (1回)  
近隣の商業施設・買い物体験 (14回)

ニ 防火・防災訓練

令和7年度は、職員・児童を入れた昼間、夜間想定火災発生時避難訓練を計9回(法定訓練2回、任意7回)実施しました。同様に、夜間想定地震発生時避難訓練を計6回(任意)実施しました。

令和6年までは、想定する出火元を厨房のみとしていたが、令和7年度より複数の避難経路を使用した訓練を目的として、出火元を厨房(1F)・支援室(2F)・家庭支援室(3F)の3か所で想定し実施しています。

⑪ 広報

イ 乳児院の広報誌「まんまる」の発行を年4回行い、保護者や関係機関等に送付し、院内活動や行事における子どもたちの様子をお知らせしています。

ロ ホームページにて行事活動をタイムリーに更新することにより、乳児院の仕事内容の周知を図ることで職員募集の効果も期待しています。また、「地域支援事業」「産後ケア」「子どもの食と栄養」「寄付とボランティア」の項目を追加し、地域の子育てを支援する乳児院の機能を周知しています。

⑫ その他

イ 実習生の受入れ

10 養成校 22 名の実習生を受け入れた。そのうち宮城県保育士養成校連絡協議会を通しての実習以外に直接当院に依頼があり実習を行った学生が1名いた。近年の実習生の中から3名が就職採用に繋がった。

- ・保育実習～10校(22名)
- ・介護体験～1回(1名)

ロ 里親研修の受入れ

みやぎ里親支援センターけやきから実習依頼を受け、宮城県・仙台市養育里親・養子縁組里親登録研修(登録前研修)並びに更新里親実習対象者に子どもたちと直接触れ合う場を提供し里親委託推進に努めた。

R7年度前期	県:3組4名	市:無し
後期	県:1組2名	市:1組1名
更新	県:1組2名	市:2組4名

ハ 施設見学等の受入れ

○他施設訪問調査

- ・さわらび学園 2名
- ・児童発達支援センター 虹色のたね明石台 2名

○施設見学

- ・就活見学(学生6名,一般6名)うち5名採用。
- ・施設見学(児童相談所他16団体84名)

<内訳>

- ・児童相談所関係 27名
- ・宮城県 7名
- ・大和町 大郷町 黒川支所 11名
- ・ラサールホーム 6名
- ・さわらび学園 9名
- ・北上市民生委員児童委員協議会 21名
- ・神奈川県乳児院施設長連絡会 8施設9名
- ・広島乳児院 4名
- ・第二啓佑学園長 1名
- ・東北福祉大学健康科学部保険看護学科教授・助教 3名
- ・宮城県立こども病院 4名
- ・尚絅学院大学大学院 5名（教授1名）うち1名心理士として採用
- ・東北福祉大学福祉心理学科 2名（教授1名）
- ・マイナビ・保育士バンク参加者 4名
- ・個人 ホームページ ハローワーク 7名 うち1名採用
- ・保育実習 インターンシップ 2名 2名採用